

特255

531

報年學前史

年四十和昭



會學前史



始



39
4

史前學會々則

- 一、本會ヲ史前學會ト名付ケル
- 二、本會ノ目的ハ史前學研究ヲ主體トシ、併セテコレニ關聯スル諸學ヲ考究普及スルニアル
- 三、本會事業ヲ達成スルタメニ史前學雜誌(年六回隔月發行)及年報ヲ發行ス。又年會及ビ春秋二回研究會合ヲ行フ。隨時ノ見學旅行、講演會並ニ展覽會ヲ催スコトアリ
- 四、會員
本會ノ趣旨ニ賛成シ年額五圓ヲ納ムル者ヲ以テ會員トシ金貳百圓以上ヲ一時ニ納ムル者ヲ以テ終身會員トスル特ニ本會ニ貢獻シタル會員ヲ名譽會員ニ推選シ終身會員ニ準ズル 會員ハ史前學雜誌及年報ノ配布ヲ受ク入會希望者ハ宿所氏名ヲ明記シ本會ニ申シ込マレタシ 所屬ノ資料圖書ヲ使用閱覽スルコトヲ得
- 五、本會員ハ大山史前學研究所ニ於テ研究ノ便宜ヲ受ケ本會ノ決議ニヨリ會長及ビ數名ノ幹事並ニ會計ヲ置キ本會ノ會務ヲ執ル
- 六、年會ノ決議ニヨリ顧問ヲ置クコトヲ得
- 七、幹事會ノ決議ニヨリ顧問ヲ置クコトヲ得
- 八、幹事會ノ決議ニヨリ本會々則ヲ變更スルコトヲ得
- 九、本會ハ事務所ヲ左記ノ所ニ置ク

東京市麹谷區櫻田一丁目九番地 大山史前學研究所内

會計	竹下 次作
幹事	山口 隆一 池上 啓介
幹事	甲野 勇 大給 尹 樋口 清之
幹事	杉山壽榮男 田澤 金吾 大場 繁雄
幹事	大山 柁 柴田 常恵
幹事	小坂 紹藏 中澤 澄男
顧問	小金井良精 柴田 常恵
顧問	石坂 紹藏 柴田 常恵

投稿規定

寄稿ノ範圍ハ史前學研究ヲ主體トシ、之ニ關連スル諸學ヲ包括ス。寄稿者ハ通常、會員並ニ會員ノ紹介アル者ニ限ル。原稿ハ返還セズ、但シ寫眞、圖表等ハ豫メ申出デアルモノニ限り之ヲ返還ス

原稿掲載ニ就イテハ幹事ニ一任サレタシ

寄稿ノ別刷ハ豫メ申込ミアル場合ニ限り、當分所要部數ノ實費及ビ送料ヲ申受ケ需ニ應ズ

昭和十四年十二月十五日印刷 昭和十四年度年報
昭和十四年十二月二十日發行 定價 五十 錢

編輯者 大 給 尹
東京市麹谷區櫻田一丁目九番地

發行者 竹 下 次 作
東京市麹谷區櫻田一丁目九番地

印刷者 高 田 壬 午 郎
東京市神田區神保町一丁目三十四
株式會社開明堂東京營業所

發行所 東京市麹谷區櫻田一丁目九番地 史前學會
東京市麹谷區櫻田一丁目九番地 史前學會

發賣所 東京市日本橋區通三丁目五番地 會社 巧 藝 社
電話青山一二五番
振替東京五八九六九番
東京市日本橋區通三丁目五番地

史前學年報

昭和十四年

昭和十四年度史前學會事業報告(創立第十一年)

一、序

例年の如く、本會は、本年報を會員諸氏の机下に送り、以て本年度に於ける史前學會の事業を綜括御報告すると共に、次年度に於ける會務を律し、合せて會員諸賢の忌憚なき御意見を伺ふ機會を致したいと存じます。

右が史前學會も此處に創立第十一年を送る事となりました。併し、ト昔と申す如く、本學會創立の當時から見ますと、科學界の情勢も一般に進歩發展の途を辿り、日毎に増々廣く、漸く研究の域が掘り進められつゝある事は、誠に御同慶に堪へぬ所であります。

殊に、我未會有の非常時下、聖戰下第三年に當る本年も、種々の困難に打ち克ちつゝ、わが史前學、考古學界の各機關が、平素の如く絶えざる活動を續けつゝある事は、われわれの最も喜とし又力強く感ずる所であります。われわれは如何なる時局に際會すと雖も、科學日本の大國民として、斯かる非生産的な學の研究も亦、繼續すべき任務を持つものと存じます。けれども、無駄を省く心がけは、銃後の國民として、單に物

質上のみに止らず、學問の内容に關しても心がくべきではないかと存じます。稍々もすれば、單なる趣味に惰し、一個の道樂に陥り易い點を充分に省みて、一層、眞摯な學的態度を保持すべき、絶好な機會であらうと存じます。この意味に於て、われわれは此非常時下に、われわれの仕事をかっちり續けて行きたいと希ふものであります。

二、史前學雜誌について

本會に於ては、御承知の如く、本年度の史前學雜誌は隔月の發行を中止し、右の代冊として、大山柏著「史前人工遺物分類」を發刊致しました。右の代冊は、「第一編、石器」を史前學雜誌第十一卷第一・二・三號に當て、「第二編、骨角器」を以て第四・五・六號に當て、二冊に分冊してあります。「第二編、骨角器」の發行は印刷の都合等で大分遅れました事は誠に申譯ありませんが、本年報と一緒に御手許に御届け致します。

既に御通知申し上げて置きました様に、右の代冊「史前人工遺物分類」は、本學會創立十周年を記念する意味での發行であります。他の各種の記念計畫は、時局柄中止致した次第であ



ります。

只、右の計畫遂行に際して、會員相互の研究機關たる本誌を一ヶ年間の代冊を以て當てましたので、會員各位の御研究を發表させて頂く紙面を失つた事は誠に遺憾に存する點であります。御不便を御かけした各位へ御詫び申します。

但し明十五年度第十二巻からは、本誌の發行も舊に復して隔月と致しますから、諸彦の御研究なり、御調査なりを従前通り御自由に御發表願ひたいと存じます。

本會としては、今後も出來得る限り、美しい寫眞、綺麗な印刷を以て、諸賢の玉稿を發表させて頂きたく努力致すつもりではあります。御賢察の如く、國策顧慮の爲めに、紙質の低下、アミ版の不鮮明等と、色々の點で差異が生ずる事があるかも知れません。右は豫め御断り申し上げて置きますが、事情御諒承願ひたく存じます。

三、顧問及び幹事等について

- 顧問 小金井良精 中澤 澄男 柴田 常恵
有坂 紹藏
- 會長 大山 柏
- 幹事 杉山壽榮男 田澤 金吾 大場 野雄
甲野 勇 樋口 清之 山口 隆一
池上 啓介 大給 尹

は、従前通り、各位の研究調査等の發表機關として、充分に本誌を御利用願ひたく存じます。

原稿の種類は、研究論文でも、調査報告の類でも、又各地の遺跡遺物に關する資料でも結構です。原稿の長短も一さい御自由です。本會の投稿規定御参照の上、奮つて御投稿願ひます。

本會々員は、現在一九四名あります。本誌の如く、範圍の狭い特殊な研究のみを対象とする専門雜誌としては、一九四名の會員數は決して悲觀すべき少數とは思はれません。けれども、會計報告を御覽下されば明かな様に、年々相當多額の赤字であります。われ／＼幹事としては、この赤字に對しても、會員數の増加を希望する次第であります。會員諸氏に於かれても、同好の士の御入會を御誘ひ下さる様切望致します。

猶、會員諸氏の會費の御拂込は、今後も各位の御便宜な方法で御願ひ致します。但し、本會からは一應集金郵便によつて御請求申しますから、成るべく右を御利用下さる様御願申します。

六、史前學研究所資料室見學について

本年も、會員諸氏並びに學術團體等の見學が多數ありました。當研究所は、學術普及の爲め、又、専門研究の方々の爲めに、常に門戸を開放して居りますから、右の如き見學は今後も大いに歡迎致します。但し、當研究所は、發掘調査等の爲めに、不定期に臨時休館をする事もありますから、見學の際は豫め一御

會計 竹下 次作

(順序不同)

永らく、本學會の會計とし、本誌の發行者として、當會の事務に盡力せられた岡田義一氏は、今秋、都合に依つて勇退されました。

右に依つて、會計事務は、不取敢大山史前學研究所の竹下次作氏によつて引繼がれました。同氏の今後の御努力を期待致します。

幹事其他は孰れも前年度に引繼き留仕され、一名の更迭もなく、常の如く、各方面に互つて御助力頂いて居ります。各位に對して深謝致す次第であります。猶、今後も一層本會の爲めに御盡力願ひたく存じます。

四、會員諸氏について

本年十二月一日現在に於ける本會々員は一九四名で、昨年同様に比して四名の減少となつて居ります。その内譯は、入會七名、退會十一名、死亡一名であります。

本會創立以來の會員、喜田貞吉博士の永眠に對し、此處に弔意を表します。

五、原稿、會費等について

前にも申しました様に、來年度、史前學雜誌は隔月の發行に復する事となつて居ります。本年度は、代冊發行に依つて、會員諸氏の玉稿を寄せて頂く事が出来ませんでした。來春から

報下さる方が御便宜かと存じます。

七、遺物 寄贈

野口定吉氏 茨城縣稻敷郡舟嶋村島津出士 磨石斧一個
當研究所に對し右の如き寄贈をうけました。同氏に對し、謝意を表します。

八、寄贈、交換雜誌

本年度に於ける本學會への寄贈及び交換圖書は、左記の通りであります。本會は、更に多くの關係學術雜誌との交換を希望し、相共に學術研究の便を計りたいと存じて居ります。

- 寄贈並びに交換して頂いた各位に深謝致します。
- 人類學雜誌 東京人類學會
- 史學 三田史學會
- 史苑 立教大學史學會
- 文化 東北帝大文科會
- 紀伊考古 紀伊考古雜誌發行會
- 史蹟名勝天然記念物 史蹟名勝天然記念物保存會
- 考古學雜誌 考古學會
- 上毛及上毛人 上毛郷土史研究會
- 大和志 大和國史會
- 北方文化研究報告 海軍省大北方文化研究室
- 史 觀 早大史學部
- 東京科學博物館研究報告 科學博物館
- 法隆寺の調査研究 法隆寺調査會
- 龜岡寺の調査研究 龜岡寺調査會

史前學會昭和十四年度會計報告 (十二月一日締切)

收入之部

總計 金一、二二六、一一錢也

内 譯

一、前年度繰越金

六、二〇錢

一、昭和十四年度中會費

八一九、〇〇錢

内 譯

昭和十三年度會費

三五、〇〇錢

十四年度

七八〇、〇〇錢

十五年度

四、〇〇錢

一、雜誌及小報賣上代

二七、三三錢

一、拔刷代金收入

三、六〇錢

一、大山史前學研究所より補助金

三六〇、〇〇錢

一、雜誌發送料 四一、〇六錢
 一、郵便切手及通信費 一八、一一錢
 一、振替諸手数料 二七、六四錢
 一、印刷費 六、〇〇錢
 一、雜費 三七、九五錢
 一、事務委託手當 一一〇、〇〇錢

内 譯

自昭和十三年十二月分
至十四年十月分

支出之部

總計 金一、〇四四、四三錢也

内 譯

一、雜誌製作費

八〇三、六七錢

差引殘額

一七一、六八錢也

史前學會々員名簿 (昭和十四年十二月一日)

A 之部

横須賀市公卿町二七九六 赤星直忠
 京都市山科町厨子奥若林三五 明石國助
 石川縣石川郡出城村字北安田 曉鳥敏
 秋田縣南秋田郡脇本村 天野源一
 東京市芝區愛宕町慈惠會醫科大學解剖學教室 新井正治
 東京市世田ヶ谷區駒澤町大字上馬引澤八四 有坂紹藏
 東京市本郷區向ヶ岡彌生町三 淺野長武
 福岡縣戸畑市中原櫻町西通イ一號 淺野隆

D 之部

盛岡市仁王小路三三三 終身會員 大坊善章

E 之部

宮城縣石卷町裏町 遠藤源七

F 之部

新潟縣北蒲原郡新發田町三ノ九 ナーベル、フェルト

G 之部

大阪市住吉區阪南町中一丁目二 藤森榮一
 京都市伏見區新町四ノ四六五 藤岡謙二郎
 朝鮮京城府東崇洞二〇一榮水臺 藤田亮策
 神奈川縣都筑郡川和町佐江戸 福田正作

H 之部

東京市麻布區斧町一七六 何英吉
 東京市杉並區阿佐ヶ谷五丁目五二六 後藤守一
 C/o Ecole Nationale des Langues Orientales Haguenaer
 Vantes 2 Rue de Lille, Paris, France. 兩館圖書館
 北海道函館市 橋本増吉
 東京市杉並區下荻窪町三丁目四七 長谷部言人
 東京市本郷區西片町二ノ四一 花村芳樹
 朝鮮京城府竹添町三ノ九六 高田和一
 岡山市國富八〇四 早川莊作
 富山市清水町五八 林魁一
 岐阜縣加茂郡太田町 林欽吾
 東京市神田區同朋町二一 林良幹
 愛知縣清洲町 哈爾濱大陸科學院分院
 滿洲國哈爾濱南崗喇嘛臺 五

東京市世田ヶ谷區松原町四ノ一五
朝鮮平壤府牡丹台公園
東京市中野區江古田九三五
東京市澁谷區伊達町七一
埼玉縣北足立郡六辻村大字沼影

I 之部

青森縣三戸郡八戸町
東京市深川區冬木町一一
東京市向島區吾嬬町西四ノ四八
東京市目黒區下目黒四ノ九七四
横濱市神奈川區岡野町一三一
長野縣埴科郡松代町六二九
東京市赤坂區青山南町一ノ五五
仙臺市北二番町八五
東京市小石川區鶴籠町二三三四
三重縣桑名郡七取村大字香取
大阪市天王寺區上汐町二ノ三五

K 之部

福岡市昭通一ノ一五

樋口清之
平壤府立博物館
堀野良之助
堀 泰二
細淵寅象

泉山岩次郎
池上啓介
稻生典太郎
今宮新
石野瑛
石坂福治
伊丹信太郎
伊東信雄
伊藤綠良
伊東富太郎
井上書店

鏡山猛

千葉縣香取郡良文村貝塚區豐玉姬神社
小倉市上富町一一四八 小田政憲方
北海道岩見澤町空知支廳内
東京市世田ヶ谷區池尻三六九 柴田民平方
東京市四谷區竈町四〇
臺灣臺北帝國大學解剖學教室
埼玉縣北足立郡六辻村白幡二五 鹿取龍造方
東京市蒲田區仲六郷町二ノ八 六郷醫院方
東京市世田ヶ谷區玉川泉澤町二ノ六六五
東京市牛込區拂方町一三
東京市深川區東陽町二ノ一七
東京市蒲田區蒲田町六九三 木村醫院内
東京市麴町區紀尾井町(四谷見附内)
京都市上京區田中關田町二二
兵庫縣加西郡富合村都染平松
東京市板橋區石神井町二ノ八一九
熊本縣下益城郡隈之庄町
京都市左京區下鴨泉川町五二ノ二
東京市豐島區巢鴨町二ノ二四
東京市本郷區駒込曙町一六

小牧實繁
小西宗吉
小島勇之助
國學院大學圖書館
甲野勇
河野廣道
倉本彦五郎
栗山邦二
忽那將愛
桑山龍進

貝塚保存會
海法成一
加藤要
神林淳雄
神尾明正
金關丈夫
鹿取瑞瑠子
片野貞明
川合貞一
川合眞一
菊池山哉
木村菊次郎
Kovert Koel
桐生和夫
清野謙次
鷗野正信
小林正
小林久雄
小林行雄
小堀治平
小金井良精

京都市左京區北白川小倉町五〇
秋田縣六郷町
京都市上京區寺町廣小路上
東京市澁谷區若木町九
東京市杉並區大宮前二ノ六二二
札幌市北十八條西六丁目
東京市品川區大井町五二八〇
富山縣上新川郡大久保町
臺灣臺北帝國大學醫學部解剖學教室
東京市芝區三田豐岡町三〇

M 之部

東京市神田區一ツ橋二ノ三 岩波書店内
東京市牛込區矢來町
東京市目黒區中目黒四ノ二二七九
東京市世田ヶ谷區東玉川町三五九一
埼玉縣北足立郡浦和町綱ヶ窪
東京市目黒區中目黒三ノ九九〇
埼玉縣浦和市白幡七六
東京市小石川區丸山町一一
東京市目黒區上目黒五ノ二四二五

牧文夫
正木直彦
松宮左京
松本信廣
松本與三郎
松本芳夫
圓谷龜重
明治聖徳記念學會
水島綱太郎

京都市左京區吉田近衛町二五ノ二六
富山縣氷見郡氷見町下伊勢
兵庫縣川邊郡川西町加茂
京都市京都帝國大學醫學部病理學教室
東京市杉並區大宮前五丁目二二六
東京府北多摩郡砂川村二六五
廣島市塚本町三六
新潟縣高田市横町一四
東京市目黒區三谷町四〇
岐阜縣大垣市東長町一〇四一ノ一
京都市東洞院丸太町南入
宮城縣石巻町住吉町
横濱市中區三春臺六
京都市左京區下鴨松ノ木町五六 西野國太郎方
神戸市灘區都通四ノ二三ノ四
秋田縣河邊郡豐岩村
東京市豐島區日白町二ノ一七二一
東京市品川區上大崎一ノ四七六
朝鮮京城本町一ノ二八 大阪屋號書店

N 之部

三森定男
淺川逸雄
宮川宗悅
宮坂光次
宮崎紘
宮田康二
森成麟造
森貞成
森俊雄
守屋孝藏
毛利總七郎
村田重義
村田義夫
村上專一
武藤一郎
日白書店
內藤政光
內藤定一郎

横濱市神奈川區青木町東輕井澤一八五七
東京市麻布區市兵衛町二ノ二七
東京市本郷區西片町一〇ろノ九號
大阪府大阪毎日新聞社
福岡市荒戸町四
東京市中野區江古田町一ノ二〇五九
北海道札幌市帝國大學附屬博物館
東京市本郷區駒込曙町一二二
東京市大森區田園調布四ノ一八二
東京市赤坂區水川町三四

O 之部

岡山市醫科大學衛生學教室
朝鮮鎮海公立高等女學校
東京市世田ヶ谷區玉川上野毛町
神戸市楠町七丁目神戸日々新聞社
神戸市荒田町四ノ一七八
東京市外武藏野町吉祥寺一七六ノ三號
東京市小石川區小日向臺町二ノ一六
東京市世田ヶ谷區玉川泉澤町三ノ一、一四三
新潟縣北蒲原郡紫雲寺村

中川直亮
中野公長
中澤澄男
中島秀雄
中山平次郎
直良信夫
名取武光
西村正衛
西岡秀雄
額田年

京都市伏見桃山大谷邸三夜莊
東京市小石川區原町一〇
岩手縣盛岡市加賀生新小路
東京市澁谷區穩田一ノ九
東京市澁谷區穩田一ノ九
關東廳旅順市大迫町
關東廳旅順市松村町二〇

R 之部

S 之部

緒方益雄
及川民次郎
岡榮一
岡田定信
小野楠雄
大場磐雄
大口喜六
大給尹
大木金平

東京市世田ヶ谷區代田五〇七
東京市世田ヶ谷區代田鶴岡六三二
東京市四谷區愛住町一六
新潟市郷土博物館内
臺灣臺北市龍口町三ノ一八
熊本縣菊池郡泗水村字住吉 日吉神社
東京市世田ヶ谷區代田二丁目八八一ノ一
東京市澁谷區豐分一
横濱市神奈川區青木町神奈川高等女學校
北海道稚内町道リ三

大谷光瑞
大塚彌之助
小田島祿郎
大山梓
大山柏
旅順博物館
旅順圖書館

齋田平太郎
齋藤弘
齋藤庄太郎
齋藤秀平
坂元軍二
坂本經堯
佐野淡一
佐々木邦
佐藤善治郎
關正

東京市板橋區練馬向山町四一
東京市牛込區市ヶ谷仲之町三八
奈良縣高市郡八木町新道
三重縣宇治山田市古市町
山形縣酒田市下臺町 光丘文庫
Torvet 7 Lyngby, Denmark.
仙臺市東北帝國大學理學部地質古生物學教室
三重縣津市縣立女學校
東京市牛込區辨天町一四九
滿洲國哈爾濱省道裡水道街省立哈爾濱第一丙級中學校
東京市牛込區河田町一一
東京市日本橋區小舟町三ノ一
東京市世田ヶ谷區野澤町一ノ七九

T 之部

東京府下關分寺村多喜窪二、一三五
熊本縣鹿本郡山東村
茨城縣新治郡石岡實科高等女學校
東京市四谷區花園町七〇
滿洲國牡丹江第六軍管區顧問部
北海道函館市末廣町九六道銀ビル五號
東洋提魚業株式會社内

柴田常惠
志賀三亥
島本一
藤田良二
白崎良彌
曾根廣
鈴木敏雄
鈴木恒治
菅崎三文
杉山壽榮男
杉原莊介
品川潤

東京市外吉祥寺二二九九四
兵庫縣西宮市鞍掛町七九
東京市澁谷區穩田二ノ八
京都市左京區鹿谷寺前町七五
鹿兒島縣伊佐郡大口町
東京市大森區山王二八三三
東京市品川區大井庚塚町四七六八
京都市左京區下鴨北園町五八
福島縣河沼郡勝常村勝常
東京市世田ヶ谷區羽根木町一七一五
東京市大森區新井宿二丁目木原山一六一八
大阪府北區中之島三丁目
東京府北多摩郡武藏野町境七八二

U 之部

W 之部

高橋一凱
高群清太
高野修正
竹下次作
田中春雄
谷敬一

神戸市御崎町一丁目織紡武藤理化學研究所
福島縣相馬郡 山上小學校内
東京市麻布區富士見町二八
東京市澁谷區瀧野川四九三

梅原末治
宇佐美定憲
宇宿捷
上田恭輔
上野精一
上野與一

和食和
渡部晴雄
渡邊泰三
和島誠一

Y之部

- 北支 青嶋 萊陽路七號海軍官舎
- 仙臺市北六番丁九三
- 長崎縣南高來郡加津佐村 山崎醫院
- 東京市本郷區元町二ノ三三
- 栃木縣佐野町赤坂通り
- 東京市芝區田町八ノ一
- 秋田市西馬口勞町
- 東京市澁谷區代々木富ヶ谷町一四五三
- 東京市中野區野方町一ノ九三八
- 静岡市安西町安西尋常小學校
- 高知縣土佐郡朝倉村一ノ三三四
- 東京市澁野川區澁野川町五四六
- 東京市赤坂區青山同潤會アパート
(參宮表參道三號館第三十三番)
- 朝鮮京城府東四軒町五〇
- 北海道北見國網走町
- 東京市目黒區三谷町一三九
- 兵庫縣西宮市社家町一〇
- 東京市澁谷區若木町 國學院大學内

合計 一九四名

大 山 史 前 學 研 究 會 刊 行 書 目

- 史前學雜誌第一卷 (昭和四年刊行) 定價六圓 史前學雜誌第七卷 (昭和十年刊行) 定價六圓
- 史前學雜誌第二卷 (昭和五年刊行) 定價六圓 史前學雜誌第八卷 (昭和十一年刊行) 定價六圓
- 史前學雜誌第三卷 (昭和六年刊行) 定價六圓 史前學雜誌第九卷 (昭和十二年刊行) 定價六圓
- 史前學雜誌第四卷 (昭和七年刊行) 定價六圓 史前學雜誌第十卷 (昭和十三年刊行) 定價六圓
- 史前學雜誌第五卷 (昭和八年刊行) 定價六圓 史前學雜誌第十一卷 (昭和十四年刊行) 定價六圓
- 史前學雜誌第六卷 (昭和九年刊行) 定價六圓 史前學雜誌第十二卷 (昭和十五年刊行) 定價六圓
- 研究小報第一號 神奈川縣新磯村勝坂遺物包含地調査報告 大 山 柏著 絶版
- 研究小報第二號 埼玉縣柏崎村眞福寺貝塚調査報告 大 山 勇著 絶版
- パンフレット第一號 史前時代の研究 大 山 柏著 定價十五錢 送〇・〇六
- パンフレット第二號 石器時代の概要 大 山 柏著 定價十五錢 送〇・〇六
- パンフレット第三號 未開人身体裝飾 大 山 勇著 定價三十錢 送〇・〇六
- パンフレット第四號 石器時代遺跡概説 大 山 柏著 定價四十錢 送〇・〇六
- 東京府に於ける主要な石器時代の編年 大 山 史前學研究所 定價一圓五十錢 送〇・一五
- 澁谷の貝塚に於ける學的調査報告(第一編) 大 山 史前學研究所 定價六十一錢 送〇・一五
- 關東繩紋式文化編年學的研究資料 第一冊 横濱市下營田貝塚群 (昭和九年刊行) 大山史前學研究所 定價六十一錢 送〇・一五
- 關東繩紋式文化編年學的研究資料 第二冊 神奈川縣都田村折本貝塚 (昭和九年刊行) 大山史前學研究所 定價六十一錢 送〇・一五
- 日本舊石文化存否研究 大 山 柏著 (史前學雜誌第四卷第五六號代冊) 定價二圓五十錢 送〇・一五
- 史前學講義要錄 (第一部基礎史前學) 大 山 柏著 定價三圓八十錢 送〇・二〇
- 史前學講義要錄 (第二部事實史前學) 大 山 柏著 絶版

東京市澁谷區 史前學會 電話 一五二一 番
 東京市澁谷區 史前學會 電話 九六九八 番

昭和十四(一九一九)年度史前學關係論文・報告・資料要目(昭和十四年十一月十五日現在)

掲載雑誌及び著書名

史前學雜誌	人類學雜誌	考古學雜誌
考古學	考古學論叢	土毛及土毛人
ドルメン	具	紀伊考古
大和志	毛野	文野
史前學	武藏野	科學の臺灣
南方土俗	北方文化研究報告	史蹟名勝天然紀念物
夢殿論誌		

目次

一、一般

二、時代別

(一) 繩紋式關係

(2) 地方誌並に調査報告

(3) 遺跡、遺物研究並びに資料

(4) 繩紋式關係、雜

(二) 彌生式並びに過渡期文化關係

(三) 原史文化關係

(四) 有史文化並に民族關係

三、地方別

(一) 本土(省略)

(二) 千島、樺太、北海道

(三) 琉球、臺灣

(四) 朝鮮、滿洲國、中華民國

(五) 地方別、雜

四、雜

一、一般

人類學會の基因

人類學雜誌の前身

先史地理學の意義

古代土器の研究(京都帝國大學文學部講義)

東亞古代美術綜説

史前人工遺物分類(一、石器)

東京市世田ヶ谷区石器時代遺物發見地名表

分析と綜合

日本人類學界前期の回想三

有坂 鉦藏	人類	類	五四一
長谷部 言人	人類	類	五四一八
丸茂 武重	考古學	論	一〇一四
濱田 耕作	考古學	論	一〇二一
濱田 耕作	考古學	論	一〇二二
大山 柏	史前學	論	一一二五
江坂 謙彌	具	類	六一
酒詰 仲男	具	類	一三
鳥居 中津、 白鳥、下村、 八木、長谷、 野、八幡、甲	ドルメン	類	五一

帝室博物館の昔を語る

ジョン・ミルンの大森貝塚年代考察

考古學界の恩人ジョン・ミルンを懐ふことども

ビナン回想—カレンフェルス教授のことども—

喜田博士追憶誌

考古學研究

原始文化史

濱田先生追憶錄

日本その日その日

後藤 守一	ドルメン	類	五一三
鳥居 龍藏	武藏野	類	二六一
中島利一郎	武藏野	類	二六二
金關 丈夫	南方土俗	類	五三三、四
濱田 耕作	大和志	類	六一八
桶口 清之	單行本		
石川 研一	單行本		

二、時代別

(一) 繩紋式關係

(1) 繩紋式關係

(2) 地方誌並に調査報告

千葉縣印旛郡地方遺跡調査日録

伊豆・相模・武蔵早期繩紋式土器出土遺跡地名表

千葉縣印旛郡地方遺跡概況

常陸東栗山遺跡調査概報

石川縣柴山岡附近の遺跡

埼玉縣水子貝塚の發掘調査

横濱市篠原町表谷(東)貝塚に於て

諸磯式の住居跡發掘

考古雜錄

酒詰、和島	人類	類	五四一五
江坂、白崎、 丹澤	人類	類	五四一七
酒詰 仲男	人類	類	五四一八
角田 文衛	人類	類	五四一九
黒川 作問	人類	類	二九一一
酒詰、和島	考古	類	二九一二
酒詰、江坂、 吉田	考古	類	二九一三
江坂 謙彌	考古	類	二九一六

(二) 彌生式並びに過渡期文化關係

神奈川縣都築郡栗田貝塚調査報告

千葉縣印旛郡地方石器時代遺跡調査

樺原聖地の考古學的調査

下總飛ノ臺貝塚調査報告

南紀の遺跡概観

駿河國佐渡出土の遺物に就き

尾三地方に於ける繩紋式文化の特異性

北伊豆に於ける古式繩紋式遺跡調査報告

紀伊四高山寺貝塚發掘調査報告

肥後水俣南福寺貝塚

考古學上より見たる岐阜縣の木古伊豆伊東町上ノ坊石器時代遺跡調査報告

伊豆半島前期繩紋式文化の研究第三報

北伊豆作楽遺跡

伊豆半島前期繩紋式文化の研究第四報

陸奥根林遺跡の研究

加賀柴山岡の石器時代遺跡に就いて

埼玉縣水子貝塚發掘日録抄

秩父點描

北伊豆に於ける古式繩紋式遺跡調査報告に關する一、二の補訂

會津盆地誌

丹澤、大江山遺跡探査記

酒詰、江坂	考古	類	二九一七
甲野、和島	考古	類	二九一七
末永 雅雄	考古	類	二九一〇
飛ノ臺貝塚 調査分科會	考古	類	一〇一四
浦 宏	考古	類	一〇一四
安本 博	考古	類	一〇一四
吉田 富夫	考古	類	一〇一四
江藤、長田	考古	類	一〇一五
浦 宏	考古	類	一〇一六
寺師 見國	考古	類	一〇一六
林 魁一	考古	類	一〇一七
河邊、佐藤、 江藤	考古	類	一〇一八
長田 實	考古	類	一〇一八
角田 文衛	論	一〇	
三養、藤岡	論	一一	
酒詰 仲男	論	一一	
齋藤房太郎	論	五・六	
江藤、長田	論	一〇	
桑山 龍進	論	一一	
鈴木、江坂	論	一一	

牛久留遺跡暫見記

東京市日蓮宗末町遺跡に就て
南加瀬(南)貝塚發掘に参加して
紀州文化の全貌とその特異性
佐渡の石器時代遺跡
静岡市九子區細工所セイゾウ山遺跡と遺物に就いて(特に九子式土器の出土に關して)
素山貝塚調査概報
大和佐保庄の石器類に就いての報告
葛城山發見の繩紋式土器遺跡について
石器時代の笠懸村(下)

(3) 遺跡・遺物研究及び資料

所謂「浮袋の口」に就いて
飛騨羽根の石器時代遺物
河内角製品に就いて(上、下)
下沼部貝塚出土の動物土偶と紡錘車形土製品
京都市北白川別當町新發見の繩紋式土器
埼玉縣水子貝塚聚穴住居跡内貝層に關する一短見
關東繩紋式土器の層位的出土遺跡の集成
横濱市神奈川區菊名町貝塚出土土器に就いて
一種の石製磨製具に就いて
貝塚の研究

和島 誠一 貝 類 一二	伊東 信雄 文 化 六一五
吉田 格 貝 類 一二	島本 一 大和志 六一三
酒詰 仲男 貝 類 一三	松並 尙夫 大和志 六一七
藤森 榮一 紀伊考古 二一三	岩澤 正作 毛 野 五一二
後藤四三九 ドルメン 五一四	
安本 博 静岡縣郷土研究 一二	
	甲野 勇 人 類 五四一
	林 魁 一人 類 五四一四
	甲野 勇 考 雜 元一〇・二〇
	〔江坂、久保、近藤〕 考古學 一〇一三
	酒詰 仲男 考古學 一〇一四
	江坂 輝彌 考古學 一〇一四
	江坂 輝彌 考 論 一四
	藤森 榮一 貝 塚 一〇
	山崎東兵衛 武藏野 二一〇・五

日本先史土器圖譜(二・三)

(4) 繩紋式關係・雜

石器時代に關するあり
史前日本の植物群
大森貝塚成人に就いてジョン・ミルン氏の考察
長谷部晋人 人 類 五四一〇
直武 信夫 考古學 一〇一四
島居 龍藏 武藏野 二六一二

(二) 彌生式關係並びに過渡期文化

遠賀川上流の有紋彌生式遺跡地
出雲國森山村時ヶ鼻洞窟出土遺物
櫻原聖地の考古學的調査
宇都宮郊外東河田の彌生式土器
信濃縣科山中大河原發見の彌生式土器
北關東後期彌生式文化に就いて
高崎市附近の彌生式遺跡
下野・中原遺蹟調査概報—第一回、第二回
上野・樽遺蹟調査概報
陸前形體貝塚出土の石器
白濱田岬出土の彌生式石器に就いて
相成谷を繞る山腹丘陵の彌生式遺跡に就いて
群馬縣發見彌生式土器の新型式名
彌生式土器集成圖録
日本先史土器圖譜(一)
山内 清男
同崎 敬 考 雜 二九一二
直武 信夫 考 雜 二九一八
末永 雅雄 考 雜 二九一〇
田中 國男 考古學 一〇一二
宮坂 英次 考古學 一〇一二
杉原 莊介 考古學 一〇一〇
杉原 乙益 考古學 一〇一〇
篠崎 寺内 考古學 一〇一〇
杉原 莊介 考古學 一〇一〇
浦 宏 紀伊考古 二一三
浦 宏 紀伊考古 二一四
岩澤 正作 毛 野 五一六
森本、小林 東京考古報 一
山内 清男

(三) 原史文化關係

上古時代鐵器の年代研究
刀子について
上總管生遺跡の一考察
上總管生遺跡の一考察(二)
奈其若草山發見の石製模造船
金銅製大刀と金銅製槌頭
組合式石棺を出した相模甘沼横穴群について
岐阜縣南武蔵村小知野古墳發見遺物
考古學上より見たる古墳墓立地の數方—信濃縣
地方古墳の地域的研究—
官幣大社宗像神社津宮境内御金藏發見の鏡に就いて
上總管生遺跡—豫報第三回—
重氣文土器に就いて
北九州に於ける特異なる壙墓に就いて
南關東を中心とする土師部統部土器の諸問題
上總管生遺跡に就いての二つの假説
仁徳天皇陵に埋まる金色の甲冑
埴輪倉庫の復原
信濃下野河原に於ける土師器の一様式—諏訪地方古墳の—
地域的研究の補遺(一)—
播磨加西郡龜山の古墳と其遺物

後藤 守一人 類 五四一四	藤森 榮一 考古學 一〇一
神林 淳雄 人 類 五四一七	豐 元國 考古學 一〇一二
大場 繁雄 考 雜 二九一	大場、酒詰 考古學 一〇一三
大場 繁雄 考 雜 二九一三	高田 素次 考古學 一〇一四
平林 悅治 考 雜 二九一四	七田 忠志 考古學 一〇一四
神林 淳雄 考 雜 二九一八	赤星 直忠 考 雜 二九一八
赤星 直忠 考 雜 二九一八	林 魁 一 考 雜 二九一九
藤森 榮一 考古學 一〇一	藤森 榮一 考古學 一〇一
豐 元國 考古學 一〇一二	大場、酒詰 考古學 一〇一三
高田 素次 考古學 一〇一四	七田 忠志 考古學 一〇一四
七田 忠志 考古學 一〇一四	杉原 莊介 考古學 一〇一四
杉原 莊介 考古學 一〇一四	ジエラード、グロート 考古學 一〇一四
平林 悅治 考古學 一〇一七	丸茂 武重 考古學 一〇一七
丸茂 武重 考古學 一〇一七	藤森 榮一 考古學 一〇一七
藤森 榮一 考古學 一〇一七	梅原 末治 考 論 一四

肥後國京ヶ峯横穴の一壁面彫刻に就いて

古墳(一・二)
二三形象埴輪の新資料
白玉を嵌せし蓋付埴に就いて
箱の埴輪(下)
群馬縣石棺出土地全貌
群馬縣野田郡松林山古墳發掘調査報告
上毛古墳總覽
近畿地方古墳墓の調査三
古文化研報 九

(四) 有史文化並に民族關係

菟田の高城考
陝前柴田郡宮澤の磨崖佛其他について
土佐寺山の古墳に就いての私案
下總國香取郡檉林寺及び其附近の板碑
本邦上代の鬼瓦に就いて
會津の古瓦
高野山金堂の佛像に就いて
土佐に存する「埋葬石佛」に就いて
天文紀年略の鎌倉編
四分寺塔婆の一考察(上、下)
法藏寺塔心礎と伊豆國分尼寺塔心礎
平安京に於ける埴輪瓦の一考察
毛利 久 考 論 一四
田澤 金吾 ドルメン 五一五・七
島本 一 大和志 六一四
島本 一 大和志 六一六
相川 龍雄 上 毛 二六一
内山留一郎 上 毛 二六四
〔後藤、内藤、高橋〕 單行本
群馬縣史跡名 五
古文化研報 九

島本 一 考 雜 二九一	松本 源吉 考 雜 二九一三
松本 源吉 考 雜 二九一三	内藤 政恒 考 雜 二九一四
内藤 政恒 考 雜 二九一四	武田 宗久 考 雜 二九一四
武田 宗久 考 雜 二九一四	關根 龍雄 考 雜 二九一五
關根 龍雄 考 雜 二九一五	松本 源吉 考 雜 二九一五
松本 源吉 考 雜 二九一五	金森 源 考 雜 二九一六
金森 源 考 雜 二九一六	笠井 藍水 考 雜 二九一六
笠井 藍水 考 雜 二九一六	藤崎 四郎 考 雜 二九一七
藤崎 四郎 考 雜 二九一七	太田 静六 考 雜 元一〇・二〇
太田 静六 考 雜 元一〇・二〇	田中 重久 考古學 一〇一二
田中 重久 考古學 一〇一二	木村捷三郎 考古學 一〇一三

本邦古銅器考

山城木津惣墓標の研究
塔婆心礎の研究
法隆寺建立年代の研究
「慶長末年以前の梵鐘」補遺
藤原鏡の成立
高尾瓢箪と其遺物
鷹尾山千光寺址
佐渡の上代遺蹟遺物を訪ねて(上・下) 内藤政恒
宮城縣利村春日瓦地場大津瓦窯
陸研究調査報告
慶長末年以前の梵鐘
臺前寺之新研究

内藤 政恒 考古學 一〇一六
坪井 真平 考古學 一〇一六
田中 重久 考古學 一〇一六
田中 源 考古學 一〇一九
篠崎 四郎 考古學 一〇一一
後藤 守一 論 一一
佐山傳右衛門 紀伊考古 二二二
堀尾 榮一 紀伊考古 二二二
赤崎 青銅器の一、二に就いて
北滿ジャライノール遺跡出土の新
資料
滿鐵國境珠鬚干附近發見の遺物
朝鮮に於ける磨製石劍の形式と分布
滿洲國吉林圖山子の遺跡
顯慶屯の二次的堆積
「顯慶屯の二次的堆積」について
北滿松江江姑附近發見の遺物
滿鐵國境珠鬚干附近發見の遺物追加
朝鮮古代交通考
南熱河に於ける新石器時代遺物概観
金完類希尹の墳墓に就いて
輯安高句麗墓に關する一二の考察
北製造像形式の成因に就いて

永澤 謙次 史 學 一八一
島本 一 大和志 六一二
丸山 瓦全 上 毛 二六五

(五) 時代別・雜

神奈川縣日吉の舊石器時代人類遺物(續報)
大和發見の新資料
邑樂郡内の遺跡と遺物に就いて

三、地方別

(一) 本土(省略)

(二) 千島・樺太・北海道

北海道室蘭木輪西貝塚發見の獸類 直真 信夫人 類 五四一〇

(三) 琉球・臺灣

ミルン氏と私の北千島探査 島居 龍藏 武藏野 二六四
臺灣島山頂遺蹟發見の先史時代遺物 甲野 勇 人 類 五四一四
臺北州西雲岩石器時代遺跡調査報告 宮本 延人 南方土俗 五十三・四
最近に發見されたる臺灣の先史時 代の遺跡 宮本 延人 科學の臺 七一
臺北郊外宮の下具塚 丹・黒田、 科學の臺 七十三

(四) 朝鮮・滿洲國・中華民國

駒井 和愛 人 類 五四一
赤堀 英三 人 類 五四一三
八幡 一郎 人 類 五四一五
有光 敬一 人 類 五四一五
三上 次男 人 類 五四一六
奥田 直榮 人 類 五四一六
直真 信夫人 人 類 五四一九
奥田 直榮 人 類 五四一九
直真 信夫人 人 類 五四一九
八幡 一郎 人 類 五四二〇
松崎 壽和 考 類 五四二一
兒玉重雄 考 類 五四二一
岡田 一龜 考 類 五四二二
駒井 和愛 考 類 五四二三
野間 荷六 考 類 五四二四

樂浪の青銅刀子
百濟平瓦に見られる刻印銘に就いて
夏門大學文化陳列所の明器その他
の標本に就いて
北魏の三角狀飾りの源流
晉城子古墳の壁畫について
金の上京址、白城に就いて
朝鮮扶餘に於ける發掘調査
新羅繪畫に關する一考察
—特に瓦塼文より見たる—
隋代の石佛一例
慶州石窟庵の造營計畫
「所謂開國寺塔について」の補
浴都水寧寺解
新羅王陵傳稱名に關する一考察
遼金都城考(北京通信)
朝鮮出土のクリス形銅劍二
人像を彫つた石斧
家語の文化
ドルメン雜記
江南訪古記
支那旅行記
河南省安陽縣外後岡・高樓莊兩遺
跡發掘調査報告
東京城

榎本 龜生 考 類 二九一四
齋藤 忠 考 類 二九一五
宮本 延人 考 類 二九一五
村田 治郎 考 類 二九一六
純 堅 考 類 二九一六
岡田 一龜 考 類 二九一七
藏田 藏 考 類 二九一七
齋藤 忠 考 類 二九一七
小野 勝年 考 類 二九一七
米田美代治 考古學 一〇一三
高 裕 考 類 一〇一七
水野 清一 考 論 一〇
齋藤 忠 考 論 一四
小野 勝年 考 論 一四
黒田 幹一 ドルメン 五一一
横山 三郎 ドルメン 五一一
三上 次男 ドルメン 五二三
藤田 亮策 ドルメン 五二五
松本 信廣 史 學 一七四
柴田 富直 史 學 一七四
大給 尹 史 學 一七四
東亞考古學 東方考古 五

(五) 地方別・雜

考古學研究
東亞文明の黎明
朝鮮瓦塼講
蒙古高原
埃及ファオスタット出土の陶磁片に
就いて
印度の初期人類及び舊石器文化
マダレーミアン以前の文化管見
ブラジル、サンパウロ州内の考古
學的調査
好會
小田宮士夫 考 類 二九一五
藤岡謙二郎 考 論 一〇
藤岡謙二郎 考 論 一一
インディオ
文化研究同 刊乙先史 二

四、雜

ナツブ島民の漁業と漁具
滿洲に於けるジャーマンの太鼓に
就いて
高砂族に於ける輻輪
原始服裝としてのアイヌのハヨクベ
軒先瓦の名稱私見
再び軒瓦の名稱に就いて
室及び宇についての一考察(上・下)
齊允價格攷
齊允生産攷
杉浦 健一 人 類 五四一二
瀧 益一 人 類 五四一三
馬淵 東一 人 類 五四一七
杉山壽榮男 人 類 五四二〇
村田 治郎 考 類 二九一二
足立 康 考 類 二九一四
織 造一 考 類 二九一六
丸茂 武重 考古學 一〇一二
丸茂 武重 考古學 一〇一二
丸茂 武重 考古學 一〇一二

聖徳太子御系譜の研究「聖徳太子 建立寺院の研究」序説(一)	田中 重久	考 論	一〇
測入器	長谷部言人	ドルメン	五一六
アイヌの矢毒「アイコルチユツア」	名取 武光	ドルメン	五一六
アイヌの木皮舟	大飼 哲夫	北方文化 研究報告	一
アイヌ屋根の研究と其構造原基體 に就いて	鷹部屋福平	北方文化 研究報告	一
アイヌ住居の研究	鷹部屋福平	北方文化 研究報告	二
アイヌの文身の研究	兒玉、伊藤	北方文化 研究報告	二
郷土博物館第十三回陳列品解説	鎌田共濟會	單行本	二

史前學雜誌 第十一卷 目次

第一・二・三號代冊

大山柏 史前人工遺物分類

第一綱 石器

第四・五・六號代冊

大山柏 史前人工遺物分類

第二綱 骨角器

Satzungen der Gesellschaft.

1. Der Name der Gesellschaft ist "Shizengaku-Kwai" (Prähistorische Gesellschaft)
2. Der Zweck der Gesellschaft ist das Studium der Prähistorie und ihrer Grenzgebiete und dessen Popularisierung
3. Die Tätigkeit der Gesellschaft erstreckt sich auf
 - A. Herausgabe der Shizengaku Zasshi (Zeitschrift für Prähistorie) (Zweimonatlich) und des Jahresberichts.
 - B. Veranstaltung von Forschungs- und Studienreisen
 - C. Veranstaltung von Vorträgen und Ausstellungen
4. Mitglieder
Die Mitgliedschaft wird erworben durch jährliche Vorauszahlung eines Beitrags von 5 Yen. Personen welche einen einmaligen Beitrag von 200 Yen oder mehr zahlen, werden lebenslängliche Mitglieder. Personen welche sich um die Gesellschaft besonders verdient gemacht haben, können Ehrenmitglieder werden und haben damit die Stellung der lebenslänglichen Mitglieder
5. Die Mitglieder erhalten die Zeitschrift und den Jahresbericht frei, jedoch wird für Zusendung nach dem Ausland das Porto berechnet
6. Rechte der Mitglieder
Die Mitglieder haben das Recht, die Einrichtungen des Ohyama Instituts für Prähistorie zu benutzen
Die Arbeiten der Mitglieder sollen in der Prähistorischen Zeitschrift veröffentlicht werden
Ferner haben die Mitglieder das Recht, an den Forschungs- und Studienreisen der Gesellschaft teil zu nehmen, die Vorträgen und Ausstellungen zu besuchen, sowie die Sammlungen und die Bibliothek der Gesellschaft zu benutzen
7. Ein aus mehreren Mitgliedern, bestehender Vorstand führt die Geschäfte der Gesellschaft
8. Wenn es sich als notwendig herausstellt, können diese Satzungen später geändert werden
9. Das Büro der Gesellschaft befindet sich:
 9. Onden Shibuya-Ku Tokio

Ohyama Institut für Prähistorie (Ohyama Shizengaku-Kenkyujo)

Ehren Mitglied und Ratgeber Prof. Yoshikiyo Koganei
Sumio Nakazawa Jookei Shibata Shozo Arisaka
Vorsitzender Fürst Kashiwa Ohyama
für den Vorstand

Kiyoyuki Higuchi	Keisuke Ikegami
Isamu Kohno	Iwao Ooba
Suco Sugiyama	Kingo Tazawa
Ryuichi Yamaguchi	Tadasu Ogyu

I N H A L T

DER
Z E I T S C H R I F T
FÜR
P R A E H I S T O R I E
X I B A N D

1 / 2 / 3 / HEFTE

Klassifikation der Steinzeitlichen Kulturreste.

I. Kapitel

Die Steinwerkzeuge.

von

Kashiwa Ohyama.

4 / 5 / 6 HEFTE

II. Kapitel

Die Knochenwerkzeuge.

von

Kashiwa Ohyama.

T O K I O

D E T Z E M B E R

1 9 3 9

ABHANDLUNGEN
DER
JAPANISCHE PRAEHISTORISCHE
GESELLSCHAFT
AUF
EUROPAISCHE SPRACHE

1929. **Kashiwa Ohyama.**
Résumé des Ausgrabungsberichts über die Muschelhaufengruppe
Kaizuka beim Dorf Yoshitumi, Provinz Chiba. (Résumé)
Præhis. Zeitschr. Bd. I, No. 5, S. 1-4.
1930. **Chiyomatsu Ishikawa.**
Professor Edward Sylvester Morse,
ibid., Bd. II, No. S. E. 1-3.
- Kashiwa Ohyama.**
Denkmal beim Muschelhaufen Oomori zum Gedächtnis an Prof.
Edward S. Morse.
ibid., S. E. 4-8.
- Letter from the family of Late Prof. E. S. Morse.
ibid., S. E. 9.
- Kashiwa Ohyama.**
Korekawa-Funde, vom Korekawa, einer charakteristischen
Station von Kame-ga-oka Typus der Nord-Ost Jōmon-Kultur.
ibid., No. 4, S. E. 11-41.
- Mitsuji Miyasaka.**
Le gisement préhistorique d'Ichioji près de Korekawa (Préfecture
d'Aomori). (Résumé de l'étude de Mr. Miyasaka (texte
japonais, p. 1 à 20) par M. Haguenaier, pensionnaire de la
Maison Franco-japonaise.)
ibid., No. 6, S. E. 43-49.
1931. **Kiyoyuki Higuchi**
Résumé über die neu gefundenen Muschelhaufen Mori (森)
unweit von Takada (高田), Gau Bungo (豊後), Kyūshū (九州).

- (Résumé)
ibid., Bd. III, No. 1, S. E. 1-6.
- Kashiwa Ohyama.**
Die Maglemosien-Kultur in Nord-Europa. (Résumé)
ibid., Bd. III, No. 2/3.
1932. **Kashiwa Ohyama.**
Der chronologische Verlauf des europäischen Paracololithikums.
(Résumé)
ibid., Bd. IV, No. 2.
- P. V. Van Stein-Callenfels.**
Die Aufgaben der japanischen Praehistorie im Rahmen der
internationalen Forschung. (Besprechung im Ohyama Institut für
Praehistorie am 22 Mai 1932.)
ibid., Bd. IV, No. 3/4, S. E. 1-10.
1933. **Kashiwa Ohyama.**
Findet Man in Japan Palaeolithikum? (Résumé)
ibid., Bd. IV, No. 5/6, S. E. 1-3.
- Kashiwa Ohyama.**
Zum Gedächtnis an Herrn Hikoichi Motoyama.
ibid., Bd. V, No. 1, S. E. 1.
- Kashiwa Ohyama.**
Herrn Prof. Dr. Hubert Schmidt zum Gedächtnis.
ibid., Bd. V, No. 3, S. E. 1.
- Kashiwa Ohyama. Mitsuji Miyasaka. Keisuke Ikegami.**
Vorläufiger Bericht über die Chronologie der Jōmon-Kultur der
Steinzeit im Kwantō (Mittel-Japan.) (Résumé)
ibid., Bd. III, No. 6, S. E. 1.
- Shosaburo Yokoyama.**
Résumé des Ausgrabungsberichts über den Muschelhaufen
Tōsandō auf der Insel Maki-no-shima, Süd-Korea.
ibid., Bd. V, No. 4, S. E. 1-7.
1934. **Iwao Ooba.**
Höhlenfunder der japanischen Urzeit. (Résumé)
ibid., Bd. VI, No. 3, E. 1-2.
- Kashiwa Ohyama.**
Die Muschelhaufen-Gruppe Shimosugeta.
Mitteilungsblatt des Ohyama Instituts. Einzelne-Ergebnisse zur

Chronologie der Jōmon-Kultur des Neolithikum im Kwantō
(Mittel-Japan) No. I.
ibid., Bd. V, No. 6.

Kashiwa Ohyama.

Der Muschelhaufen von Orimoto.
Mitteilungsblatt des Ohyama Instituts. Einzelne-Ergebnisse zur
Chronologie der Jōmon-Kultur des Neolithikum im Kwantō
(Mittel-Japan) No. II.
ibid., Bd. V, No. 6.

1936. **Ryuichi Yamaguchi.**

Sur l'Homme Néolithique au Japon.
ibid., Bd. VII, No. I. Anhang.

Kashiwa Ohyama.

Die querschneidige Pfeilspitze.
ibid., Bd. VIII, No. 2.

1937. **Kashiwa Ohyama.**

Der Ausgrabungsbericht über den Muschelhaufen Kasori, beim
Dorf Miyako, Prov. Chiba. (Résumé)
ibid., Bd. IX, No. I, S. E. 1-6.

Kashiwa Ohyama.

Die Muschelhaufengruppe Oogushi. (Résumé)
ibid., Bd. IX, No. 2, S. E. 7-8.

Kashiwa Ohyama.

Ausgrabungsbericht über die Muschelhaufengruppe Takaku-Neda,
beim Dorf Funashima, Prov. Ibaraki. (Résumé)
ibid., Bd. IX, No. 4, S. E. 9-11.

Kashiwa Ohyama.

Ausgrabungsbericht über den Muschelhaufen Ichinomiya, bei der
kleinen Stadt Ichinomiya, Prov. Chiba. (Résumé)
ibid., Bd. IX, No. 5, S. E. 12-13.

Tsuneji Suzuki.

Haushund aus "Stenaldere i Danmark." (Résumé)
ibid., Bd. IX, No. 5, S. E. 14-15.

1938. **Kashiwa Ohyama**

Rückblick über den zehnjährigen Fortschritt bis zum Erscheinen
des 10 Bandes unserer Zeitschrift. (Résumé)
ibid., Bd. X, No. 1, S. E. 1-2.

1939. **Kashiwa Ohyama.**

Klassifikation der Steinzeitlichen Kulturreste.

I. Kapitel Die Steinwerkzeuge.

ibid., Bd. XI, No. 1/2/3. S.E. 1-17.

Kashiwa Ohyama.

II. Kapitel Die Knochenwerkzeuge.

ibid., Bd. XI, No. 4/5/6.

JAHRESBERICHT
DER
JAPANISCHEN
PRAEHISTORIE
(SHIZENGAU-NEMPÔ)



11. JAHRGANG

TOKIO

DEZEMBER

1939

Japanische Prähistorische Gesellschaft

(SHIZENGAU-KWAI)

9. Oden Shibuya-Ku Tokio

終